

セラピューティックレクリエーションサービスモデルの実践に関する研究（1）

ーアセスメント&プログラム計画（AP）シートの試案ー

茅野宏明（武庫川女子大学）

社会福祉制度とレクリエーションサービスの接点

平成12年度から介護保険が導入され、日本の社会福祉制度は一つの変革期を迎えた。導入に際して最も重要なことは、利用者が介護サービスを自らで選択できることである。つまり、利用者、あるいは利用者の家族などの判断によって、本人が受けたい介護サービスの施設や業者を選択できるようになった。その状況下でレクリエーションサービスが介護サービス全体の質的向上に貢献できる可能性を秘めていると言える。

例えば、高齢者対象のデイ事業（デイケアやデイサービス）にとって、①送迎、②入浴、③昼食は欠かせないサービスであり、特に美味しい食事サービスの提供や入浴時の快適さや清潔さは常に維持・向上することが求められている。そのほかに④機能訓練サービス（デイケアでは理学療法士などの医療専門職による医療サービス、デイサービスでは介護職などの専門職によるグループ活動を中心とした機能訓練サービス）、そして⑤これら以外の時間を過ごす自由時間サービスとしてのレクリエーションサービスがあげられる。⑤はリハビリと称し、④の一部に含まれる場合と年間行事的なイベントなどを指す場合がある。

このように、社会福祉制度におけるレクリエーションサービスの役割は、利用者が自由時間に快適さ・満足感・充実感などを感じる機会を提供することにある。そこには大別して次の二つの視点が考えられる。

①利用者が利用する施設における自由時間を快適に過ごす機会の提供

②利用者が利用施設で習得した行動を自分の生活に取り入れる機会の提供

これらの視点はまた、利用施設が短期療養型なのか、長期療養型なのかによっても、レクリエーションサービスの役割は異なるという点からも理解できる。

社会福祉制度との接点に着目して、福祉レクリエーションの援助が財団法人日本レクリエーション協会から発信されている。その繁栄ぶりも福祉レクリエーション関係の書籍などから明らかである。それらの内容から判断すると、先述の①、つまり主にアクティビティの提供に関わっていると考えられる。

日本におけるセラピューティックレクリエーションサービスの展開の糸口

セラピューティックレクリエーション（以下、TR）サービスはアメリカにおいて、その効果を行動変容の視点で客観的に評価した経緯を持ち、医療関係者からの評価も認められている現在、そのサービスの一部が医療点数化されている。CTRS¹として登録された専門職がそのサービスを行うことが必須。

日本におけるTRサービスの発展を妨げている主たる原因は、CTRSが数少なく²、その職種もないことがあげられる。妨害要因を解消するためには、

①CTRSによるTRサービスの展開

②CTRSの資格保持のためのセミナー開催

などが、日本におけるTRサービスの発展に深く関わる点と言える。

そこで、本研究では、この2点のうちの①に注目し、CTRSによるTRサービスを、療養型病床群入院施設において、円滑に進行させることに範囲を限定した。TRサービスの導入によって、個人のニーズに適したプログラムが提供でき、意図的な援助方針のもと、成果をあげることが可能になると推測される。すでに、同様の場面で高齢者対象のレクリエーションサービス、あるいは福祉レクリエーション援助が行われており³、それらのサービスとの連携も含め、将来的には医療機関におけるTRサービスの認知も視野

に入れる可能性も否定できない。

研究の目的

本研究の目的は、TRサービス実施する際に必要不可欠である基本的援助計画の方向性を示唆するAP (Assessment & Program Plan) シートを試案することである。

セラピューティックレクリエーションサービスモデルの応用性の限界

TRサービスモデルの代表としてあげられるのは、1978年にGunn & Petersonが発表したモデル⁴である。1983年には、NTRS (全米セラピューティックレクリエーション協会) がTRサービスの基本モデルとして彼女たちのモデルを採用した⁵。その後、1998年にはTherapeutic Recreation Journal⁶において、TRサービスに適したモデルが紹介された。本研究では、それらのモデルから中枢的存在である余暇活用能力モデル(Leisure Ability Model by Peterson & Stumbo)⁷に注目した。その最大の理由は、TRサービスの独自性を明確に提示でき、さまざまな場面における応用できる点である。

TRサービスの計画を立てる際、一つのTRサービスモデルに基づいたサービス段階やサービス過程に、各サービス利用者のアセスメント結果を反映して、適切なレクリエーション財を投入するのが一般的である。しかし、例えば音楽を取り上げても、その形態は一つには留まらない。例えば、クラシック音楽が好きな場合、①CDを聴く、②コンサートへ行く、③ピアノでショパンを弾く、④自作の曲を弾くなど、多種多様な形態が考えられる。これらをプラス指向の形態とすれば、⑤聴覚への悪影響を無視した大音量による視聴行為、⑥大音量による近隣への迷惑行為などのマイナス指向の形態も考えられる。

このように、自由時間に行う活動や行動の形態がどのようになっているのか、つまり自由時間の過ごし方の『全体像』を把握する必要性が強く感じられる。

以上から、一モデルに適応したTRプログラムを計画する際、一元的なアセスメントに基づくプログラム計画を練るよりも、さらに別の視点からのモデルを加え、二元的な視点によるアセスメントとプログラム計画も有効になると考えられる。

ナッシュの自由時間行動の階層モデルの採用

サービス利用者のアセスメントを包括的に把握するためには、自由時間活用の階層モデル⁸と余暇活用能力モデルから二元的に捉える視点が適当と考えられる。その根拠として、①自由時間をどのように活用しているのかを見極めるランキングにより、余暇行動をプラス指向とマイナス指向とに分けられる点、②それらの行動の分布状況も明らかになる点があげられる。48年前に発表されているモデルではあるが、TRサービスにおけるアセスメントやプログラムに採用するレクリエーション財の現状と発展性を見極めるためには重要なモデルと判断して採用した。

APシートの試案と今後の課題

余暇活用能力モデルと階層モデルを用いる二元的なAPシートには、①階層モデルに基づいて余暇行動の総数に対する各ランクの占める割合を明示、②マイナス指向の余暇行動を減少するための方向性を見極め、③余暇活用能力モデルのプロトコルに基づいたプログラムを計画する、という観点を必要とした。そこで、APシート⁹を、①余暇行動のアセスメントと今後の方向性の提示 (APシート①)、②TRサービスのプロトコルに基づくプログラム計画の提示 (APシート②)、という2つのセクションに分けた。実際にケースを当てはめた結果が表1と2である。シートは療養型病床群入院施設以外でも使用可能。

今後は、APシートをCTRSとともにその機能性と実用性について、実践を通して研究していく必要がある。このようなシートの熟成が、TRサービスの啓蒙活動を展開することにつながると考えられる。

表1 APシート① 余暇行動のアセスメントと今後の方向性の提示【男性（70歳）無職】

時系列	過去 (会社員期)		現在 (定年後10年経過)		TRサービスによる余暇行動の変容				
	過去の自由時間行動	数	全余暇行動に対する割合	現在の自由時間行動	数	全余暇行動に対する割合	理想的な自由時間行動	数	全余暇行動に対する割合
4 創造的参加	川柳づくり（日記の中に時々記入）	1	7.7%	-	0	0.0%	川柳づくり、自作品のまとめ	2	11.8%
3 能動的参加	日記（業務報告的内容）	1	7.7%	日記（業務報告的内容）	1	5.9%	日記（業務報告的内容） 元部下と交流、川柳クイズの投稿	3	17.6%
2 情緒的参加	TVの視聴（プロ野球、笑点、駅伝、マラソン）、プロ野球観戦	5	38.5%	TVの視聴（プロ野球、笑点、駅伝、マラソン）	4	23.5%	TVの視聴（プロ野球、笑点、駅伝、マラソン）、川柳の作品見学、インターネット体験	6	35.3%
1 娯楽、暇つぶし、現実逃避	TVの視聴（天気予報） 昼寝、新聞、読書、部下との飲食（自宅）	5	38.5%	TVの視聴（天気予報） 昼寝、新聞、読書、新聞の川柳クイズ、昼晩酌	6	35.3%	TVの視聴（天気予報） 昼寝、新聞、読書、新聞の川柳クイズ、適度な飲酒	6	35.3%
0 自傷的行為	-	0	0.0%	飲酒時の記憶障害、 新たな対人交流を回避、 余生を思索し不安	3	17.6%	-	0	0.0%
0以下 他傷的行為、 反社会的行為	家族に対して服従を要求	1	7.7%	妻の行動に干渉し怒罵、 時に腕力で抑止、 妻の趣味を抑制	3	17.6%	-	0	0.0%

自由時間活動の数の合計 13

自由時間活動の数の合計 17

自由時間活動の数の合計 17

- ¹ Certified Therapeutic Recreation Specialist の略。登録商標。TR 唯一の資格。
- ² CTRS は 4 名、暫定 CTRS が 2 名、元 CTRS 2 名。（2001 年 9 月現在の推定）
- ³ 鶴巻温泉病院、亀令園などが代表的施設。
- ⁴ Gunn, S.L. & Peterson, C.A. (1978). Therapeutic recreation program design. Englewood Cliffs, NJ: Prentice-Hall, p.p.13-27.
- ⁵ 茅野宏明・土井利幸、レクリエーション、271、p.p.56-57、1983 年。
- ⁶ Therapeutic Recreation Journal, (1998). 32(2-4). あるいは、吉田圭一他編著、レクリエーション活動援助法、ミネルヴァ書房、p.p.29-40.
- ⁷ Peterson, C.A. & Stumbo, N. (2000), Therapeutic recreation program design (3rd ed.). Boston, MA: Allyn and Bacon.
- ⁸ Nash, J. (1953), Philosophy of recreation and leisure. St. Louis, MO: The C.V.Mosby, p.p.88-98.
- ⁹ データ未記入の AP シート（エクセル文書）希望者にはメールで添付可能。info@LEEPnet.com まで。

表2 APシート② TRサービスのプロトコルに基づくプログラム計画の提示【男性（70歳）無職】

ランク	目標行動	プログラムの名称と方針	系統目標	到達目標	到達目標の達成度の評価基準	P&Sモデルの目安
4 創造的 参加	川柳づくり、 自作品のまとめ	【川柳の再開プログラム】 利用者が自分の気持ちや世 間に対する気持ちを川柳に 表現することを介して、自 願的行動や他動的行動を消 滅する機会を提供する	① 利用者は、詩（俳句、川 柳、短歌など）を詠うこ とができる	日記記入時に、一日を振 り返った詩を詠う	詩の提示を求められた時、利用者は詩ノートに書いてあ る詩を示すことができる。これは以下の項目を基準とし て、CTRSによって適切であるかどうか判断される。 5句以上/週【第一段階】 6句以上/週【第二段階】 7句以上/週【最終段階】	レクリエーション 参加の段階
			② 利用者は、自作品を整理 登録することができる	① 利用者は、今までの自作 品を覚える	自作品の提示を求められた時、今までの作品を全て持参 することができる。これは以下の項目を基準として、CTRS によって適切であるかどうか判断される。 50%【第一段階】 75%【第二段階】 90%【最終段階】	
			③ 利用者は、分類標準に基 づいて自作品を分類する	② 利用者は、自作品を分類 する基準を決定する	自作品を分類する基準を求められた時、分類の基準を提 示することができる。これは以下の項目を基準として、 CTRSによって適切であるかどうか判断される。 分類の提示（100%）	
3 能動的 参加	日記（業務程 度的内容）充 実下と交流、 川柳クイズの 投稿		④ 利用者は、元部下と交流 することができる	① 利用者は連絡のとりやす い元部下をリストアップ する	リストの提示を求められた時、利用者は元部下のリスト を提示することができる。これは、以下の項目を基準とし て、CTRSによって適切であるかどうか判断される。 最低5人がリストアップ（100%）	余暇教育の段階
			② 利用者は連絡する順番を 決める	② 利用者は連絡する順番を 決める	連絡順の提示を求められた時、利用者は元部下の連絡順 を提示することができる。これは、以下の項目を基準とし て、CTRSによって適切であるかどうか判断される。 リストアップされた全員に順番を記入（100%）	
			③ 利用者は住所録を完成す る	③ 利用者は住所録を完成す る	住所録の提示を求められた時、利用者は元部下の住所録 を提示することができる。これは、以下の項目を基準とし て、CTRSによって適切であるかどうか判断される。 リストアップされた全員の住所録を完成（100%）	
			④ 利用者は、元部下との面 会日を決定する	④ 利用者は、元部下との面 会日を決定する	尋ねられた時、利用者は元部下との面会日時を提示す ることができる。これは、以下の項目を基準として、CTRSに よって適切であるかどうか判断される。 面会日時の提示（100%）	
			⑤ 利用者は、元部下と面会 する	⑤ 利用者は、元部下と面会 する	尋ねられた時、利用者は元部下と一緒に写った写真を提 示することができる。これは、以下の項目を基準として、 CTRSによって適切であるかどうか判断される。 元部下と一緒に写った写真（100%） 元部下との会話の内容を尋ねられた時、利用者は元部下 が作った会話についての意見をノートに記したメモを提示 しながら、部下の意見を述べることができる。これは、以 下の項目を基準として、CTRSによって適切であるかどうか 判断される。 1メモの提示（100%） 2内容については、CTRSが判断	
			⑥ 利用者は、元部下と再開 日を決める	⑥ 利用者は、元部下と再開 日を決める	尋ねられた時、利用者は元部下との再開日を提示するこ とができる。これは、以下の項目を基準として、CTRSに よって適切であるかどうか判断される。 再開の候補日の提示（100%） 再開日の提示（100%）	
2 情動的 参加	TVの視聴 （プロ野球、 実況、駅伝、 マラソン）、 川柳の作品見 学、インター ネット体験					
1 感情的 参加	TVの視聴 （天気予報） 画像、新聞 の川柳クイズ、 適度な飲酒		⑦ 利用者は、適正な量で飲 酒することができる	① 利用者は医師に相談する	尋ねられた時、利用者は医師との相談日を述べるこ とができる。これは、以下の項目を基準として、CTRSによ って適切であるかどうか判断される。 相談日時の提示（100%）	機能的介绍
			② 利用者は医師から処方 を受ける	② 利用者は医師から処方 を受ける	医師からの診断計画を尋ねられた時、利用者は医師の処 方を記録したメモを提示することができる。これは、以 下の項目を基準として、CTRSによって適切であるかどうか判 断される。 1 診断計画のメモの提示（100%） 2 診断計画のメモの内容については、CTRSが判断	
			④ 利用者は処方どおりに飲 酒する	④ 利用者は処方どおりに飲 酒する	尋ねられた時、利用者は飲酒記録を提示することができ る。これは、以下の項目を基準として、CTRSによって適切 であるかどうか判断される。 飲酒の記録（67%以上、週に4日以上） 日記への記録としても記入される	
0 自発的 行為	なし					
0以下 他動的 行為、 社会的 的行為	なし		⑧ 利用者は、自分のマイナ ス行動を抹消することが できる	① 利用者は自分の行動の一 ① 日、日記に記すことが できる	一日の行動記録を尋ねられた時、利用者は一日の行動記 録シートを提示することができる。これは、以下の項目を 基準として、CTRSによって適切であるかどうか判断される。 1 ノートの提示（100%） 2 内容については、CTRSが判断	機能的介绍
			② 利用者は自分の行動を分 析できる	② 利用者は自分の行動を分 析できる	行動について尋ねられた時、利用者は記録した行動から 他者によってプラスの行動とマイナスの行動を述べるこ とができる。これは、以下の項目を基準として、CTRSによ って適切であるかどうか判断される。 1 プラス行動の表示（100%） 2 マイナス行動の表示（100%）	
			③ 利用者は自分のマイナス 行動に対処する	③ 利用者は自分のマイナス 行動に対処する	尋ねられた時、利用者は他者へのマイナス行動を減らす ための対策を述べることができる。これは、CTRSによ って適切であるかどうか判断される。	